# 第２学年算数科学習指導案

１　単元名　1000までの数

２　本時のねらい

1000未満の３位数の数カードを使ったゲームや、「大きな数づくり」を通して、３位数の数系列、順序を理解し、大小を比較することができるようにする。

３　準備物

【教師】　０、100、1000の目盛のみがある1000までの数直線（掲示用）
３位数のカード２枚を入れた封筒（３グループ分）
０から９までの数カード（教師用）

４　展　開

| 学習活動・内容（時間：分） | 教師の働きかけと評価（評価方法） |
|---|---|
| １　「どこに立とうかな」ゲームの方法を知る。（５） | ○　前時の学習で使った数直線を教室の側面に張り出し、ゲームに使う。 |
| ２　「どこに立とうかな」ゲームをして、３位数の数系列について考える。（25）<br>＜ゲームの方法及びルール＞<br>①　二人の代表児童が数カードを１枚ずつ引き、自分の数だけを見て数直線の前に見当を付けて立つ。<br>②　他の児童は、二人のカードに書かれた数を教師から聞いて、ワークシートの数直線上に書きこむ。<br>③　他の児童は、代表児童の立った位置から二人の数を予想する。<br>④　代表児童は自分の数を他の児童に見せ、他の児童は、それぞれの数を基に、二人の並ぶ順序や、数直線上の位置を修正する。<br>・100の位が全て異なる場合<br>・100の位は等しく、10の位が異なる場合<br>・１の位だけ異なる場合 | ○　二人の数の予想やその理由を全体で話し合わせ、数直線の目盛りの意味や、数の位に関するよい発言を取り上げ、板書していく。<br>○　話合いが活発になるように二つの数の組合せを考慮し、３通り用意する。<br>㊦　数直線の仕組を基に、二人の数を予想して小さい順に並べ、数直線上に示すことができる。（ワークシート）<br>○　理解が不十分な児童に対しては、100の目盛りが全部ついている数直線をヒントカードとして渡し、数を数直線上に対応させる。 |
| ３　ゲームから学んだことをまとめる。（５） | ○　話合いの中で出てきたよい考え方を整理し、文章でまとめさせる。 |
| ４　３枚の数カードを使って、大きな数をつくる。（10） | ○　３枚のカードを並べて、できるだけ大きな３位数の数をつくることを知らせる。<br>○　100の位に一番大きな数をおくとよいことに気付いた児童に理由を説明させ、100の位の数は100の束の数を表していることを確認する。<br>○　３つの数の中に0が入った場合も考えさせ、100の位に0を置くと、３位数にならないことにも気付かせ、数の表示の仕方への理解を深めさせる。 |